

『万葉集』に親しむ

万葉の女流歌人

古文化同好会にて

二〇二四年十一月九日

時雨彩色

(しぐれいろどり)

岡本三千代

高円の野辺の秋萩 この頃の 暁露に 咲きにけむかも

春日野に 時雨降る見ゆ 明日よりは 黄葉挿頭さむ 高円の山

時雨の雨 間無くし降れば 三笠山 木末あまねく 色づきにけり

大君の 三笠の山の 黄葉は 今日の時雨に 散りか過ぎなむ

卷八の一六〇五・一五七二・一五五三・一五五四(大伴家持・藤原八東・大伴稻公)

★代表的な女流歌人

磐姫皇后・額田王・鏡女王・持統天皇・大伯皇女・大伴坂上郎女・笠女郎・狭野弟上娘子など

君待ち草

①

君が行き 日長くなりぬ 山尋ね 迎えか行かむ 待ちにか待たむ

かくばかり 恋ひつつあらずは 高山の 岩根しまきて 死なましものを

ありつつも 君をば待たむ うちなびく 我が黒髪に 霜の置くまでに

我が想い 寄せたる人を 待ちぬれば 君待ち草も 今宵咲かずや

秋の田の 穂の上に 霧らふ 朝霞いづへの方に 我が恋やまむ

卷二の八五・八六・八七・八八(磐姫皇后・岡本三千代 補作詩)

② 相聞

難波高津宮に天下治めたまふ天皇の代「大鷦鷯天皇、諡を仁徳天皇といふ」

磐姫皇后、天皇を思ひて作らす歌四首

君が行き 日長くなりぬ 山尋ね 迎へか行かむ 待ちにか待たむ

右の一首の歌は、山上憶良臣の類聚歌林に載せたり。

かくばかり 恋ひつつあらずは 高山の 岩根しまきて 死なましものを
ありつつも 君をば待たむ うちなびく 我が黒髪に 霜の置くまでに

秋の田の穂の上に霧らふ 朝霞 いつへの方に 我が恋止まむ

卷二の八五〇八八

或本の歌に曰く

居り明かして 君をば待たむ ぬばたまの 我が黒髪に 霜は降るとも

右の一首は、古歌集の中に出づ。

卷二の八九

古事記に曰く、軽太子、軽太郎女に奸けぬ。故にその太子を伊予の湯に流す。この時に、衣通王、

恋慕に堪へずして、追ひ往く時に、歌ひて曰く

君が行き 日長くなりぬ やまたづの 迎へを行かむ 待つには待たじ

「ここにやまたづといふは、これ今の造木をいふ」

卷二の九〇

②

右の一首の歌は、古事記と類聚歌林と説ふ所同じくあらず、歌主もまた異なり。因りて日本紀に檢すに、曰く、「難波高津宮に天下治めたまふ大鷦鷯天皇の二十二年の春正月、天皇、皇后に語りて、八田皇女を納れて妃とせむとしたまふ。時に、皇后聴しまつらず。ここに、天皇、歌よみして、皇后に乞ひたまふ云々。三十年の秋九月、乙卯の朔の乙丑、皇后、紀伊国に遊行きて、熊野の岬に到り、その処の御綱葉を取りて還る。ここに、天皇、皇后の在らぬを伺ひて、八田皇女を娶して宮の中に納れたまふ。時に、皇后、難波の済に到りて、『天皇八田皇女を合しつ』と聞きて大く恨む云々」といふ。

また曰く「遠飛鳥宮に天下治めたまふ雄朝孀稚子宿祢天皇の二十三年の春三月、甲午の朔の庚子、木梨軽皇子を太子となす。容姿佳麗にして、見る者自に感てつ。同母妹軽太娘皇女もまた艶妙し云々。遂に竊かに通けぬ。乃ち悒懐少しく息む。二十四年の夏六月に、御羹の汁凝りて氷となる。天皇異しびて、その所由をトへしめたまふ。トふる者曰く、『内の乱あり。けだし親々、相奸けたるか云々』とまうす。仍りて太娘皇女を伊予に移したまふ」といふ。今案ふるに、二代二時に、この歌を見ず。

聖帝オホサザキは嫉妬深い皇后イハノヒメに振り回される

オホサザキの浮気と大后の嫉妬

聖帝と呼ばれたオホサザキですが、女性関係も大変派手でした。それに加え、皇后イハノヒメは大変嫉妬深い人でしたから、オホサザキは女性関係に悩むという面も見せています。

ある時、オホサザキが吉備出身のクロヒメをそばに侍らせていた時のこと。これを知った皇后は激しく嫉妬しました。クロヒメは震え上がり実家に逃げ帰るこ

とになります。遠のくクロヒメの船を見たオホサザキは想いを歌に詠みましたが、この歌をイハノヒメが聞いてしまったから大変。皇后はさらに怒り、クロヒメを船から降ろすと、歩いて吉備まで帰らせたのでした。

またしばらく後のこと、皇后が宴のためのミツナガシワの葉を採りに木国に出かけた間に、オホサザキは腹違いの妹ヤタノワキイラツメとねんごろな仲になりました。帰路、このことを伝え聞いた皇后は、採った

葉をみな海に捨てて実家のある葛城の方へと向かいました。オホサザキは、家臣に歌を託して機嫌を取ろうとしましたが、皇后の心は変わりません。ふたりを直に会わせるしかないと考えた家臣は、オホサザキに進言します。オホサザキは自



Point

- オホサザキは皇后イハノヒメの嫉妬に困らされた
- イハノヒメは嫉妬深い反面、情に厚い面もあった



「古事記」を知るための書籍・映画

『葛城と古代国家』

大和政権成立以前から勢力を持つ葛城氏は、政権成立後も朝廷の歴史に名を刻んでいます。こうした葛城氏と大和政権との関わりを詳しく明かしていきます。

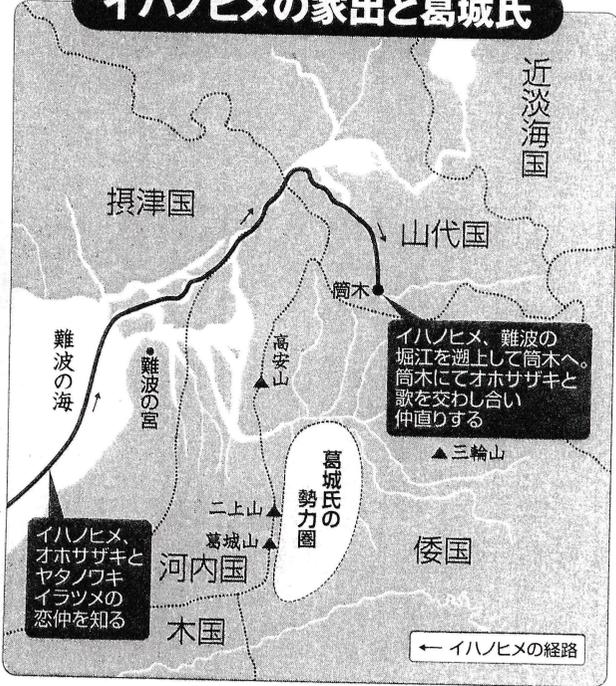


門脇禎二 著
門脇禎二 著
講談社

もっと知りたい

夫の浮気を知った皇后は、故郷を懐かしみ、「わたしが見たいと思っ国は、葛城の高宮、なつかしきわが家の辺りよ」と詠いますが、天皇家と葛城氏との同盟関係を壊すことにもなりかねないため、実家に帰ることは悪いとどまりました。その皇后を迎えに行ったオホサザキは、珍しい虫を見るという口実で宮を発ちますが、皇后の前では「あなたが嫉妬して騒ぎ立てるから、長くのびた桑の枝のように渡ってきたよ」と詠います。

イハノヒメの家出と葛城氏



イハノヒメ、難波の堀江を遡上して筒木へ。筒木にてオホサザキと歌を交わし合い仲直りする

イハノヒメ、オホサザキとヤタノワキイラツメの恋仲を知る

オホサザキの失恋と大后の情

オホサザキの恋はまだ続

ら皇后のもとへ向かって、歌を詠み、ようやくふたりは仲直りしたのです。

きます。ある時オホサザキは、メドリに想いを伝えようと弟のハヤブサワケを使い遣りました。しかしメドリはハヤブサワケに想いを寄せていたので、ふたりはそこで結ばれてしまいま

した。その後メドリはハヤブサワケに、歌を贈りますが、それは天皇の首を取れ、という内容で、まさに謀反の誘いでした。

人づてに歌を聞いたオホサザキはすぐさま軍勢を整えて派遣。メドリとハヤブサワケは手に手をとって山中で軍勢に追いつかれ殺されてしまいました。

古事記 mini コラム 葛城氏と天皇家

オホサザキの後イハノヒメの出身。葛城氏は、古くから大和国の葛城を拠点とし栄えた有力豪族です。

難波を拠点とする天皇にとって、有力者がひしめく大和を押さえる葛城氏は、重要な同盟者でもありました。4世紀末頃、その葛城氏をまとめたのがイハノヒメの父ツツヒコです。

朝鮮での大和政権の軍事行動を指揮して多数の捕虜を連れ帰った勇将とされ、軍事・外交の両面に手腕を発揮したといわれます。

また、ツツヒコの娘イハノヒメはオホサザキに嫁いで3人の皇子を産み、それぞれが天皇となりました。また、孫のクロヒメもイザホウケ（履中天皇）に嫁ぎ、曾孫ハエヒメもふたりの天皇の母となるなど、葛城氏は天皇家の外戚として政権内で強大な権力を誇りました。

オホサザキは、面目を保つために家臣が言った口実に乗り、はじめてから仲直りをしに来たのでした。ふたりが交した6つの歌は、ゆるやかな調べで詠ったため「しつ歌」と呼ばれています。

2この時、オホサザキという家臣がメドリの美しい腕輪を奪い妻に与えました。戦勝の宴で、オホサザキの妻の腕輪に気付いた皇后は激怒します。仕えていた御子の物を剥ぎ取るとは、とすぐさまオホサザキを死罪にしました。嫉妬深さはかりが強調されるイハノヒメですが、こうした情に厚い面もあったのです。

★春秋競憐歌（春秋シャンソン）

冬ごもり 春さり来れば 鳴かざりし 鳥も来鳴きぬ

咲かざりし 花も咲けれど

山を茂み 入りても取らず 草深み 取りても見ず

秋山の 木の葉を見ては 黄葉をば 取りてぞしのふ

青きをば 置きてぞ嘆く そこし恨めし

秋山われは

卷一の十六（額田王）

近江大津宮御宇天皇代「天命開別天皇諡曰天智天皇」

天皇詔内大臣藤原朝臣競憐春山萬花之艶秋山千葉之彩時額田王以歌判之歌

冬木成 春去来者 不喧有之 鳥毛来鳴奴

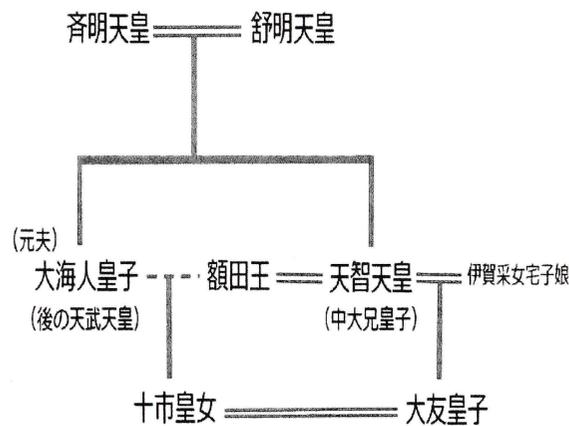
不開有之 花毛佐家礼杼

山乎茂 入而毛不取 草深 執手母不見

秋山乃 木葉乎見而者 黄葉乎婆 取而曾思努布

青乎者 置而曾歎久 曾許之恨之

秋山吾者



※家系図は簡略して書いています

磐姫皇后万葉歌碑

(四基) いわのひめこうごうまんようかひ

107
132
133
134

在りつつも 君をば待たむ うちなびく わが黒髪に 霜のおくまでに

(巻二一八七) 磐姫皇后

このままあなたを待ちましょう。垂らしたままのわたしの黒髪が白髪になるまでも。

かくばかり 恋つつあらずは
高山の 岩根しまきて 死な
ましものを

(巻二一八六) 磐姫皇后

これほどまでに恋こがれるのだ
ったら、高山の大きな磐を枕に
して死んでしまうほうがましだ。

秋の田の 穂の上に霧らふ
朝霞 いつへの方に 我が恋
やまむ

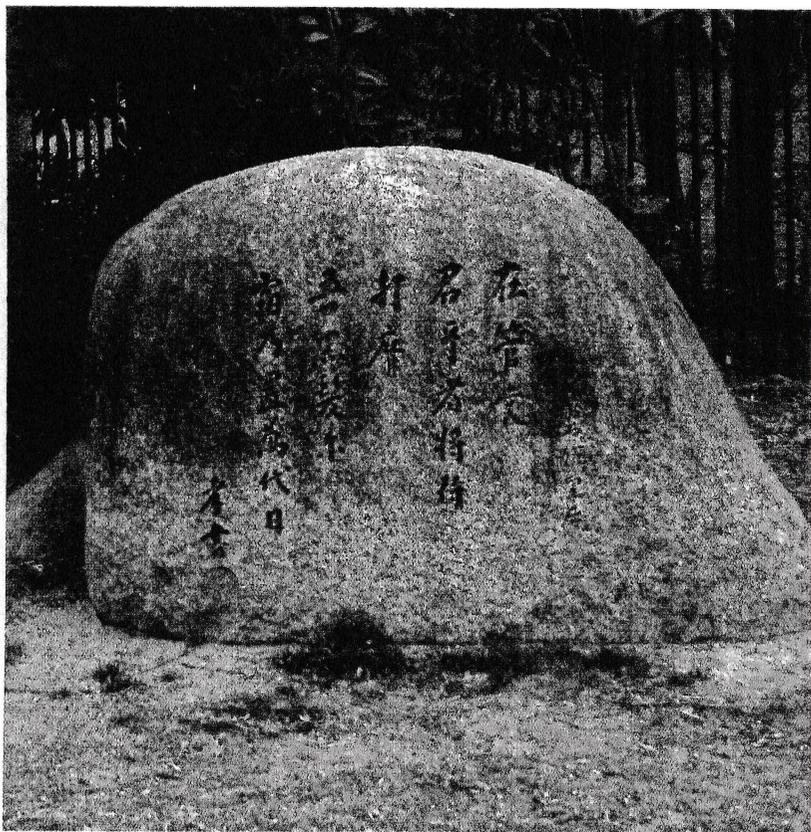
(巻二一八八) 磐姫皇后

秋の田の稲穂の上にかかっている
朝霞のように、いつどちらに
私の恋ははれるのだろうか。

居明かして 君をば待たむ
ぬばたまの 我が黒髪に 霜
は降るとも

(巻二一八九) 磐姫皇后

夜を明かしてあなたを待ちましょ
う。(ぬばたまの)私の黒髪
に霜が降ろうとも。



碑面 107

磐姫皇后

在 管 裳
君 乎 者 將 待
打 靡
吾 黒 髪 尔
霜 乃 置 萬 代 日
孝 書

位置 堺市堺区大仙町 大仙

(仁徳天皇陵) 古墳西

側遊歩道

除幕式 平成七(一九九五)年

五月二十五日

建立者 わが町堺の万葉歌碑の会

寸法 九五×一五八

解説

犬養先生は昭和二十七年、堺市成人学校が開校された当初より昭和六十三年まで、万葉鑑賞講座の講師を担当してきた。その功績によって昭和五十七年に、先生は堺市功労者表彰を受けた。万葉歌碑は受講者ならびに有志によって、堺市の文化振興を願い、あわせて先生への感謝の気持ちを込めて大仙公園の中に建立された。

歌碑の右横には、歌碑の由来を記したヒノキの解説板が立っている。

除幕式は、午前十時から約三十分間おこなわれ、二百名ほどが参加した。堺市長の幡谷豪男

氏が祝辞を述べた。記念品は揮毫歌を染め抜いた手拭いで、白生地に紺字と、紺生地に白字の二種類が作られた。十一時から約一時間、堺市博物館において、「磐姫」と題する犬養先生の記念講演があった。この講演内容は『フォーラム堺学』第三集(財団法人堺都市政策研究所、一九九七)に所収されている。

碑面 132〜134

如此許

恋乍不有者

高山之

磐根四卷手

死奈麻死物乎

孝書

秋田乃

穂上尔霧相

朝霞

何時邊乃方二

我恋將息

孝書

居明而

君乎者將待

奴婆珠乃

吾黑髮尔

霜者零騰文

孝書

裏面

(各歌読み下し文のあと、各碑共通) わが町 堺を市民の自由と自治の精神で真に魅力あるまちへ

解説

と再生することをめざし、あわせて仁徳天皇陵(大仙)古墳をはじめとする百舌古墳群の世界文化遺産となることを願って、ここに文化功労者 大阪大学・甲南女子大学名誉教授 犬養孝博士揮毫の万葉歌碑を建立する。平成十九年六月三日

堺万葉歌碑の会

位置 堺市堺区大仙町 大仙

(仁徳天皇陵) 古墳西

側遊歩道

除幕式 平成十九(二〇〇七)

年六月三日

建立者 堺万葉歌碑の会

寸法 七〇×三三×三三 セ

ラミック嵌込み

その後、平成十六年五月二十二日には、万葉歌碑建立十周年記念として、万葉植物六種の記念植樹が歌碑の周囲でおこなわれた。午後は会場を堺市博物館に移して、記念講話・万葉歌朗唱・万葉うたがたりなど多様な催しがあり、約百五十名が参加した。

さらに平成十八年八月、「堺万葉歌碑の会」(名称変更)は、磐姫皇后の万葉歌碑四基の建立を堺市に働きかけ、実現の運びとなった。三基の歌碑の文字は犬養先生揮毫の色紙を用いたが、「君が行き 日長くなりぬ ……」(巻二―八五)の色紙が

見つからなかったため、この歌の揮毫は犬養悦子氏(犬養孝先生実弟、犬養廉氏の夫人)がした。除幕式は平成十九年六月三日午前十時からおこなわれた。四基の歌碑は(107)の歌碑の左右に二基ずつ建てられている。すべて立柱型で上面に二十五センチメートル四方のセラミックを嵌込み、そこに歌が記されている。

当時十二時半から引き続いて祝賀会がリーガロイヤルホテル堺で催された。